

たくさんの「ありがとう」は
行動で示したい。
それが、私たちの社会貢献・
環境への配慮の原点です。

私たちのCSRのキーワードは、「絆」。お客さま一人ひとりの絆はもとより、社会・環境との絆も深めたい。「私たちに今、できることは何か」「私たちに今、期待されていることは何か」を考え、素直に感謝の気持ちを表わしたい。だから私たちは、安心して豊かに暮らせる「社会」や「環境」をはぐくみ、守っていけるよう、社会貢献や環境保全活動にも積極的に取り組みます。

社会貢献・環境保全活動

●明治安田生命の社会貢献活動について

当社は企業市民として、真に豊かな社会の実現に向けて、広く社会貢献活動に取り組んでいます。その取り組みにおいては、会社の実施する事業、従業員参加により推進する

事業および財団等の実施する事業、の3つを柱と位置付けています。

社会貢献活動の基本方針は次のとおりです。

●社会福祉分野における重点的な展開

相互扶助の精神に基づき、クオリティの高い支援を行ないます。とくに、障害のある人および高齢者への福祉面に重点を置いています。

●従業員参加型の地域貢献活動

従業員がボランティアとして行なう地域貢献活動を大きな柱に位置付けています。

●公共性と先見性

社会貢献活動の展開にあたり公共性を重視するのはもちろんのこと、NPOなどの市民参加型福祉団体とも連携し、社会のニーズに的確に応えます。

●事業の継続性と安定性

社会貢献活動の継続性と安定性を重視し、息の長い活動に取り組めます。

●会社による活動

黄色いワッペン

1965年以来、新入学児童を対象とした交通安全キャンペーンの一環として「黄色いワッペン」の贈呈を行なっています。（株式会社みずほフィナンシャルグループ、株式会社損害保険ジャパン等との共同実施）



愛と平和のチャリティーコンサート

愛と平和の祈りを込めたチャリティーコンサートを東京YMCAと実施しています。チャリティー募金はアジアの子どもたちへの支援活動に寄付されます。



「関西を考える」会の活動

1976年以来、地域貢献活動の一環として、「ふるさと関西を考えるキャンペーン」を行ない、毎年、関西の歴史・文化に関する冊子を刊行しています。



ジョン万次郎記念センター

日米の市民の草の根交流を推進する「ジョン万次郎記念センター」を支援しています。



改善状況

◎法人名や代表証券番号で法人契約*を検索するシステムを開発し、迅速な回答を行なうとともに手続漏れを防ぐようにしました。（2006年4月）

* 法人契約とは、契約者（保険料負担者）を法人とする保険契約です

エイブルアート・オンステージ

当社がNPO「エイブル・アート・ジャパン」とともに実施している「エイブルアート・オンステージ」は、2006年度で3年目を迎えます。当事業は障害のある人たちに演劇、ダンス、音楽等の舞台芸術の分野で自己を表現する機会を提供しています。プロの舞台人やアーティストとのコラボレーションを通して、これまでに見たことのない表現や作品づくりに挑戦し、新しい舞台表現の可能性を発見してもらおうというものです。

2005年から2006年にかけては、全国から公募で選ばれた8つのグループがエイブルアート・オンステージの活動に参加し、各地で舞台表現のワークショップ、レッスンそして公演（作品発表）を実施しました。

2006年10月には3日間にわたり、東京にて参加グループが一堂に会しての「コラボ・シアター・フェスティバル2006」を開催。公演やシンポジウム等により、一年間の活動の成果を発表しました。



「音の公園」 音遊びの会



「すべてを越えて」
湖西市手をつなぐ親の会

新しい文化、よりよい社会を上げるために

日本NPOセンター 代表理事 エイブル・アート・ジャパン 常務理事
播磨 靖夫 さま

■NPOとの協働ではぐくむ市民文化

明治安田生命は、合併する前から日本NPOセンターの会員であり、両社ともに文化に対して積極的な取組みをされていました。合併を機に新しい社会貢献活動を始めたいというお話を受け、ご紹介差しあげたエイブルアート・オンステージの活動に賛同され、一緒にやっこいこうということになりました。障害者の方が、単にアートにアクセスするのではなく、自ら舞台に立つことが叶ったということは非常に画期的なことです。社会にとって共に生きることは必要条件ですが、夢と文化という十分条件がないと、いきいきとした社会になりません。そのなかで、企業の役割は、NPOを介して企業文化と市民文化の融合を図って活性化させること。明治安田生命に支えられたエイブルアートは、その1つの成功事例になるものと信じています。

■人に投資することが求められる時代に期待すること

最近私は、日本の社会が壊れてきてい

るのではないかと感じています。暗い話題が多すぎます。重要なのは「他者への配慮」＝「ケア」だと考えています。これは、まさに生命保険会社のテーマそのものと言っても過言ではありません。他者という言葉のなかには、実際の隣人というほかに「自然」も「環境」も「社会」も「異文化」もすべてが入ります。そのなかでも、いい社会をつくるためには、何よりも人を育てることが不可欠です。ぜひ、明治安田生命にはこれからも、他者への配慮、人への投資を念頭に、哲学を持った社会貢献活動に取り組んでいただきたいと期待しています。



お客さまの声

◎ 契約者に対してもっといろいろな情報提供ができないのか。

地域と一体となった防災体制づくりのため「東京駅周辺防災隣組」へ参画

2004年1月に発足した「東京駅周辺防災隣組」（千代田区丸の内・有楽町等の町会・協議会で組織）の中核メンバーとして、街の防災力向上や大地震発生時等の帰宅難民救済のための諸活動を展開しています。月一回の定期会合や、毎年開催される行政・民間団体協賛の帰宅難民避難訓練に対して、当社MY PLAZA1階アトリウムを訓練会場として提供するとともに訓練運営にも多くの職



員が参加しています。

また、当社では、大地震発生時等における行政の要請、あるいは緊急事態の場合、MY PLAZA1階アトリウムやエントランスを帰宅困難者の緊急避難場所として提供する準備をしています。なお、これらの活動が評価され「千代田区防災貢献者区長表彰」を受けました。

地域防犯活動「東京駅防犯パトロール」に参加

犯罪発生率の高い駅周辺の防犯・治安対策として、当社は防犯協会の一員となり、警察署・鉄道警備隊・東京駅等と定期パトロール体制を構築し、月に一度のペースで防犯パトロール活動に参加しています。

地道な活動が評価され、2006年6月には、地域防犯への協力が顕著なものに対して警視庁より贈られる「防犯功労者等表彰」を受賞しました。

●従業員参加による活動

「社会貢献活動基金」による地域貢献活動の実施

地域貢献活動を支援する目的で、従業員による募金を原資とした「社会貢献活動基金」を2004年に創設しました。「社会貢献活動基金」は、従業員が参加している非営利団体への助成および職場で行なうボランティア活動への助成を実施しています。また、国内外の人道上の災害救援、復興支援のための寄付を行なっています。

久留米支社が支援している「りんどう杯車椅子バスケットボール大会」の器具・諸経費を久留米市バスケットボール協会に助成しました。



また、2004年10月に発生した「新潟県中越地震」および2004年12月に発生した「スマトラ沖大地震・インド洋大津波」災害に対し、人道上の災害救援・復興支援として、従業員による特別募金を実施するとともに、義援金寄付や支援物資等の提供を行ないました。2006年度においては、北海道佐呂間町の竜巻災害や7月豪雨災害に対し、被災地支援・復興のための義援金の寄付を行ないました（7月豪雨災害において、鹿児島県共同募金会常務理事 松園耕造さま（写真右）へ義援金目録を贈呈）。



改善状況

◎4月に介護保険制度が改正されたことを受け、公的介護保険制度の概要および利用方法を平易に解説したパンフレット「介護保険制度安心ガイド」を改訂する等、さまざまな情報提供に努めています。（2006年4月）

「ふれあいコンサート」

1984年より、日ごろコンサートに行く機会の少ない障害のある子どもたちに「生の音楽」を楽しんでもらうことを目的として、ザ・ワイルドワンズの鳥塚しげきさんによる「ふれあいコンサート」を開催しています。このコンサート

は従業員の募金で運営しており、これまでに全国95の養護学校等で開催しました。鳥塚しげきさんの歌にあわせて子どもたちが一緒に歌ったり、踊ったり、手作りの楽器を演奏したりと、どの会場でも参加者全員が一体となってコンサートを楽しんでいます。

もう100回。まだまだ100回。

■CMソングがきっかけで始めて、もう23年

明治安田生命との出会いは、はるか23年前、僕がCMソングを歌ったことがきっかけでした。ちょうどそのとき、モノによる支援でない、新しい社会貢献活動を模索されていたなかで、「感動」をプレゼントするのはどうかという話もちあがり、僕がコンサートをやりましょう、ということになったのです。そのコンサートが、今年で早や23年、95回。2007年には100回を数えようとしています。

■子どもたちの反応を見ていると、続けてきて良かったと思う

障害を持つ子どもたちは、集中する時間が限られています。だからできるだけ目や耳に訴えるものを取り入れて、ときには新しい曲を作ったりしながら「参加できるコンサート」を続けてきました。スピーカーを通した、身体で感じることでできる「音」には何か特別な力があるのだと思います。車いすの子どもたちも、一生

ザ・ワイルドワンズ
鳥塚 しげき さま

懸命身体を動かす努力をします。子どもたちが養護学校の先生にも見せたことのない表情を見せる瞬間があります。あの表情を見ていると、続けてきて良かったと思いますね。



■信念のある社会貢献活動を継続することの大切さ

ただ、こうした活動は、熱意だけでは継続できません。やはり最低限のお金はかかります。バブルの頃はいろいろな社会貢献活動がありましたが、景気が悪くなったら、あっという間に撤退というのが実に多かったです。社会貢献活動は、やるのなら継続的にやるべきだし、しっかりした信念がなかったらやるべきではないと思います。その点で、明治安田生命は芯が通っています。僕ももうすぐ60歳になりますが、体力の許す限り共に続けていきたい活動です。

「ふれあいコンサートがやって来たぞー」

待ちに待っていた「ふれあいコンサート」の日がやって来ました。ザ・ワイルドワンズの鳥塚しげきさん（トリさん）の歌が聞けると、先生や父兄の方も盛り上がっていました。

さあ、オープニングの音楽が流れ、いよいよトリさんの登場です。「えー?!昔とぜんぜん変わってないじゃん!」というのが初めの印象でした。トリさんはヘッドマイクで身ぶり手ぶりを交えながら昔のままの声で歌い始めました。子どもたちは障害の有無にかかわらず音楽が大好きなので、すぐに体を動かしながら参加していました。そのうちトリさんが舞台から降りてきて子どもたちの輪のなかに入って歌いだすと、みんな大喜び。トリさんは障害児た

岡崎養護学校 PTA会長 倉橋 龍生 さま

ちに対してもバリアフリーの心で接してくれて、子どもたちは笑顔笑顔のオンパレードでした。時間もあっという間に過ぎ、最後はあの「想い出の渚」を大合唱しました。「トリさん、またぜひ来校してください!今日はすてきな音楽、ありがとう」



（2006年10月6日 岡崎養護学校にて「ふれあいコンサート」を開催しました）

お客さまの声

◎給付金を請求するときに支払対象となるかどうかわからないのか。いざ請求して支払われなければ診断書代が無駄になるではないか。

「地域で守ろう!子どもの安全」防犯活動



昨今、小学生が登下校中に事件・事故にあう事例が全国的に多発しています。登下校の時間に地域で営業活動をしている当社は、このようなことのない安心・安全な街づくりに貢献したいと考え、明治安田生命労働組合と連携して「子

どもの命・安全を守る」防犯活動を展開することとしました。

「お客さまへの日ごろの感謝の気持ちを目に見えるかたちで表そう」を合言葉に、保険による安心と地域社会への安心・安全を同時にお届けするために、下記のような取り組みを実施しています。

また、全国の支社でも独自の取り組みを行っており、お客さまや官公庁の方々からご評価いただいています。

具体的な活動内容

ネームタッグ(吊下げ、クリップ止め兼用) 携行による告知活動推進

- 吊下げタイプのネームタッグに、取組み等を記載したプレート(裏面に警察等の緊急連絡先を記載)を挟み込み、地域・職域等での営業活動時に常時携行することで、地域防犯への意識を醸成するとともに、犯罪行為への牽制効果を発揮
- 携帯電話に最寄りの警察等の電話番号を登録し、

不審者を見かけた場合等の地域行政への情報の連携体制を整備

- 不測の事態に備えて防犯笛*を活動時に携行。子どもがトラブルに巻き込まれそうになったときには防犯笛による近隣への救助依頼や警察への110番通報を実践し、子どもの保護・安全に積極的に対応

* 海難救助用の救命胴衣に装着されており、周波数が高く聞こえやすい構造

各支社の防犯活動の取組事例

■県庁ホームページにおける活動紹介

広島支社の子どもの安全にかかわる活動にご賛同いただき、当社の取組みが広島県庁のホームページ上の「地域まるごと子ども見守り宣言」というコーナーで紹介されています。

■地元の祭りにTシャツを着用して参加

浦和支社所属の150人の従業員が「地域で守



ろう!子どもの安全」のキャッチフレーズをつけたオリジナルTシャツを着用し、地元の祭りや地域パトロール、地域清掃活動等に参加しました。地域の方々からは「とても良い活動なので、継続して欲しい」等、感謝の声をいただいています。

■防犯プレートを車の窓に掲示

滋賀支社では、「地域で守ろう!子どもの安全」のフレーズが入ったプレートを、営業活動中の車の窓に掲示し、犯罪の抑止効果を高め、地域の安全・安心に貢献しています。



改善状況

◎給付金のご請求手続きを案内する際に、お申し出いただいた保険事故(傷病名、手術名等)の内容に基づいて、お支払いの可能性について事前に情報を提供するサービスを開始しました。(2006年6月)

愛の声かけ・配食運動

従業員がボランティアとして、全国各地の配食サービス活動に参加することを支援しています。ボランティアを希望した従業員に対して、本人が地元のボランティア団体と一緒に活動できるように会社がコーディネートしています。

全国で、食事作りに不自由している高齢者や障害のある方々に従業員が温かいお弁当をお届けしたり、話し相手になったりしています。



海岸の清掃活動

NPO「日本渚の美術協会」は、海岸の清掃活動と収集したゴミや漂流物を使用してアート作品を制作することにより、人々に「海をきれいにしよう」と呼びかけています。当社従業員が、協会創立時よりボランティアとして参加しており、海岸での清掃活動や初心者へのアート作品の制作時の講師を務めています（2006年度NPO「日本渚の美術協会」にアート作品制作のための器材・補助材料等を寄贈しました）。



●財団等による活動

当社は、以下の財団等の活動を通じて、社会貢献に取り組んでいます。



■明治安田厚生事業団

健康増進および体力向上を通じて「健康かつ長寿」社会の実現への寄与を目的に活動しています。



■明治安田クオリティオブライフ文化財団

クラシック音楽分野および地域の伝統文化分野における人材の育成を支援しています。

■明治安田こころの健康財団

設立以来一環して発達障害児の療養をはじめ、児童青少年の健全育成のための事業を行なっています。



■明治安田生活福祉研究所

年金、健康、医療、介護、就業や能力開発を含むライフプランニングなどの分野を中心に調査・研究を行なっています。



お客さまの声

◎解約の申し出をしてからの手続きが遅すぎる。

●環境保全活動

環境問題を通じた社会貢献として、省エネルギー・省資源型の事業活動の推進や、「全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール」への協賛を通じた環境教育の支援を行っています。

■本社ビルにおける紙使用量削減への取組み

2004年9月の明治安田生命ビルへの本社機能移転を契機に、ITインフラ基盤等の整備^{*1}を通じ、生産性、消費資源効率の向上をめざす、“新しい働き方”を推進しました。その結果、社内モバイルワークの定着によって、2006年3月までに本社部の紙使用量を30%削減（移転前比）しました。

■明治安田生命ビルにおける廃棄物の分別回収、リサイクルへの取組み

明治安田生命ビルにおいては、入居テナントも含めてビル共通の専用リサイクルボックスを設置し、分別廃棄を徹底する等、廃棄物の分別回収やリサイクルに取り組みました。その結果、ビル全体のリサイクル率は82.4%（うち明治安田生命部分は93.3%）に向上しました。このような取組みが高く評価され、2006年2月に、千代田区から優秀賞をいただきました。これは、生命保険業界では初めての受賞となります。

■省エネルギーへの取組み

2004年8月末に竣工した明治安田生命ビルは、環境共生をめざし、さまざまな省エネルギー設備や自然エネルギーを利用する設備を導入して、環境負荷の軽減を

実現しています。例えば、夜間電力を利用する氷蓄熱システムや躯体蓄熱システム^{*2}を導入し、電力使用量の平準化を図るとともにCO₂排出量の抑制に寄与しています。また、温暖化防止と断熱効果を図るため屋上に植栽を行なっています。

■CDP^{*3}（カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト）

機関投資家としての地球環境への社会的責任を果たすため、2006年にCDP（カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト）に署名しています。

■「全国小中学校児童・生徒環境絵画コンクール」に協賛

1997年より「全国小中学校環境研究会」主催の絵画コンクールに協賛しています。本コンクールは、“みんなで作ろう住みよい町”、“みんなで守ろう大切な自然”をテーマに全国の小中学生から作品を募集しています。小学校の部および中学校の部の各1作品に明治安田生命特別賞を贈呈しています。



小学校の部
二村 梨紗さん（岐阜県）



中学校の部
比嘉 夏子さん（長崎県）

*1 ユニバーサルレイアウトの採用、無線LAN・ノート型PCへの移行、複合機、PHS電話機導入、社内ポータルサイト・電子文書管理システム等の開発等

*2 氷蓄熱システムは、夜間に建物内で氷をつくり、昼間にこれを解氷して冷房に利用するシステムです。夏季の電力消費ピーク時間帯には、氷蓄熱システムの解氷のみで冷房を行なっています。また、躯体蓄熱システムは、夜間に天井内のコンクリートを冷やしておき、昼間、この冷熱を冷房に利用するシステムです

*3 カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト

気候変動に関する問題に関心を持つ機関投資家が連携し、毎年、グローバル企業に対して地球温暖化対策への姿勢や取組みに関する情報開示を要求するプロジェクトです。2006年は、世界の機関投資家225社以上が署名参加し、運用資産は31兆米ドルにのぼります

改善状況

◎解約手続きに関する事務フローを見直し、解約のお申し出を受け付けてから解約請求書の作成に要する時間を短縮しました。